個人の市場価値の向上と生涯成長を支える

NEWS LETTER

EAT
Education for Asian Talents

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.44

2026 年 03 月

☐ 岡村の最近の注目ニュース　☐ ビジネス予備校近況リポート　☐ B-EAT 会活動報告　☐ What's up?

2026/03

「投資も人生も リスクマネジメントが幸せ持続の肝 ～ワーストの想像から始めよう」

米国が、ベネズエラに続き、遂にイランにまで戦争を仕掛けたことによって、さすがに平和慣れした我々日本人も、地政学リスクを越えて戦争リスクを危惧し始めた。

皆さんにはぜひ三菱重工の株価を１０年チャートで追ってほしい。２０１０年代に業績が低迷し２００円台だった株価は、いまや防衛銘柄として４０００円台後半まで急騰した。２０２２年ロシアウクライナ戦争きっかけに上昇を始めたものの、当時は短期終戦が見込まれ２年弱、横ばいだった。思いがけない長期戦が世界主要国の立場を二分、戦争拡大リスクの高まりとともに株価は急上昇、さらに米日での政権交代が拍車をかけた。

卒業生のみなさんにはちょっと冷静に考えてほしい。ベネズエラ侵攻の翌日、米国株式市場急上昇をどう思ったか？防衛産業、インフレ等、買い材料に反応し続ける投資家マインドや風潮には違和感がある。澤上篤人氏的に言えば、欲の皮が突っ張った人が買い続ける限り、理屈を越えて上がってしまうのが相場だ。ＮＩＳＡ等で株を買ってきた人は、直近の（これでもまだ小さな）急落に驚きつつも、おおよそほくほくしていることだろう。でも、もっともっとと欲望の塊になっていたら要注意。

持続的な幸せの鍵はリスクマネジメントにある。今起こりうるあなたにとってのワーストは何かを常に考えてほしい。

・１９９８年ＬＴＣＭショックによりたった２日間でドル円瞬間▲１５％円高へ
・２０００年米国ＩＴバブル崩壊によりＮＡＳＤＡＱ指数は▲８０％暴落
・２００８年リーマンショックの時に世界の株価インデックスは▲５０＋％下落

相場の急変事例は枚挙にいとまがない。

リスクマネジメントとはワーストを想像することである。投資の世界においては、起きて欲しくないと思うことが、時間を経て起きがちだ。欲深ければ谷深し。私が肝に銘じ励行しているリスクマネジメントを参考までに記す。

・株式▲50%、為替▲20%が瞬時に暴落しても絶望しない金額のみ投資（統計より実際の市場危機の経験を重視）
・金利 1%上昇で 10 年国債価格は約 10%下落するという債券リスクの銘記（債券安全神話への直観的疑義）
・株式ポートフォリオは時価上昇しても資産管理帳簿では簿価記載（「絵に描いた餅」を排除）
・一方、下落資産は即日低い時価に修正（心理的損切り）
・暴落時でも積立投資を継続できる自らの“心理的損失許容度”を定期点検（家庭状況や収支変化も考慮）

自分の人生は、自ら考え、自ら作りたいではないか。

プロの運用者に不可欠のリスクマネジメントを学んでから、心豊かな人生のマネジメントも少し上手になったように思う。私は、安定的日本企業に２０年勤めた後に辞め、外資社長も会社が成長軌道に乗ったのを見届けてから起業に転じた。知らない人からは、リスクテイカーと勘違いされるが、実際は逆だ。外資に転じ時は、一年で首になったらどうなるのか？をひたすら考えていた。最初にブランド企業に転職しておけば、仮に失敗しても次の次ぐらいまでは誰かが拾ってくれるとの助言がいまも耳に残る。起業時も失敗することばかり想像していた。ヘッドハンターに、倒産時にもう一度組織人としての職が見つかるかしつこく質問したら、倒産の仕方によるよ！と言われたのがいまとなっては笑い話。

投資も、人生も、最初にワーストを想定しておけば、あとは安心して攻めに徹するることができる。そんな想像力の訓練こそが、ＡＩ時代に人間の価値を認識できるチャンスのようにも思う。

ご多忙の中、今回ご寄稿くださった柳瀬社長は、ＡＩ／ＩＴへの造詣を越えて、人の心を熟知して企業に変革をもたらした経営者として私が心から尊敬する方だ。

注）この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！　（EAT 代表　岡村 進）

AI やデータを企業でどう活用するか？

嘉穂無線ホールディングス
株式会社
代表取締役社長
柳瀬 隆志　氏

1990 年代半ばのインターネット普及以降、IT 技術は私たちの生活やビジネスのあり方を根本から変革してきた。90 年代後半の Google や EC サイトの登場、2010 年頃のスマートフォンの爆発的な普及により、常時接続のデジタル社会が到来した。同時期にクラウドサービスも台頭し、自社管理のサーバーからクラウド経由での柔軟なシステム利用へとパラダイムシフトが起きた。当社でもいち早く 2015 年頃からクラウド上のデータウェアハウスを導入し、Tableau 等の BI ツールで全社データを一元管理・分析する取り組みを開始した。かつては大企業特権だった大規模データ分析が安価かつ高速に行えるようになり、当社の DX の推進役となった。

そして現在、生成 AI をはじめとする人工知能技術が圧倒的なスピードで進歩している。ChatGPT、Gemini、Claude 等の大規模言語モデル（LLM）の開発競争には数兆円規模の想像を絶する投資が行われ、数週間ペースで常識を覆す高性能 AI が生み出されている。この劇的な波を捉えるべく、当社は 2024 年 12 月より OpenAI 社のエンタープライズプランを導入した。約 250 ライセンスを契約して全社活用を推進しており、1 年半前には想像もできなかった高度な業務処理が日常的に行えるようになっている。

しかし、生成 AI を単なるチャットツールとして使うだけでは、業績に直結する抜本的な業務効率化や新たな付加価値の創出は見えづらい。そこで当社は、これまで蓄積したデータ資産を活かし、社内業務を効率化する専用アプリの内製開発プロジェクトを始動させた。主力のホームセンター事業は多岐にわたる商品知識が求められるため、店舗業務のデジタル化によるスタッフ支援が急務である。経験の浅いスタッフでも、AI 搭載アプリを使えば直感的な操作でお客様のニーズに合った最適なサービスを提供できる。重要なのは、これを外部の専門家に丸投げするのではなく、元店舗スタッフの本部社員が現場の意見を汲み取りながら、AI と共に自ら開発する「シティズン開発」を採用している点だ。

「シティズン開発」の最大の強みは、圧倒的なスピードと現場適合性である。従来はシステム部門や外注先に依頼して数ヶ月から数年かけていた開発が、現場を熟知した社員と AI のアシストにより、数日から数週間で完了し、導入後も継続的な改善が可能になる。当社は 2020 年頃からデータ分析人材育成プログラム「グッデイ データアカデミー」を立ち上げ、SQL や Python を扱う人材を育ててきた。グループ会社の「カホエンタープライズ」経由で外部企業にも提供している本プログラムの卒業生は、当社の「データドリブン経営」の力強い推進役となっている。今年からはこれをさらに進化させ、AI の予測・生成能力を中核に据える「AI ドリブン経営」を目指す。その強力な原動力が、「シティズン開発」によるアプリ開発なのだ。

これからの日本社会は、深刻な少子高齢化や労働人口の減少、物価や賃金の高騰など、企業経営を揺るがす課題が山積している。これらの困難に柔軟に対処し、持続的な成長を遂げていくためには、変化を恐れることなく、データと AI という強力な武器を使いこなし、課題解決の仕組みを自ら生み出せる企業への進化が不可欠である。

What's up?

福井　賛
San Fukui

EAT ビジネス予備校
東京クラス 7 期生
東急不動産株式会社
中国現地法人　董事総経理

EAT の皆様、同期の皆様変わらずお過ごしでしょうか？
EAT 受講終了直後に米国ロサンゼルスへ赴任しましたが、昨年 7 月より中国上海へスライド赴任しています。私にとって楕円思考という考えが EAT の象徴的な学びでしたが、米国から中国への二大大国間でビジネスや生活の場を変え、その揺らぎ・振れ幅に直面する他方で重なり合う共通項もあると感じ過ごしています。
今回の寄稿を機に、これらを咀嚼しながら、日々変わる環境に対して大局観をできるだけ意識しながら過ごさねばと改めて考えました。

EAT 株式会社人財アジア
〒100-0005 東京都 千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階
［TEL］03-6300-6460　［Mail］info@eat-star.asia

特別寄稿および What' s up?　に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問合わせのほど、お願い致します。